



2026 年 10 月 7 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ジ ー エ ヌ ア イ グ ル ー プ
代 表 者 名 取締役代表執行役社長兼 CEO イン・ルオ
(コード番号: 2160 東証グロース)
問 合 せ 先 執行役 C S O 兼 古 拓 也
(TEL. 03-6214-3600)

グロース市場から TOPIX へ——ジーエヌアイグループ、制度改革後初の定期入替で新規採用

株式会社ジーエヌアイグループ（東証：2160、以下「当社」）は株式会社 JPX 総研が算出する TOPIX（東証株価指数）の構成銘柄として採用されることとなりましたので、お知らせいたします。当社株式は 2026 年 10 月 30 日より TOPIX に構成銘柄として算入される予定です。

TOPIX 改革により、グロース市場から新たに採用

TOPIX は、日本の株式市場を代表する株価指数であり、国内外の機関投資家が資産運用の基準として幅広く利用しています。

2026 年 10 月に初回の定期入替が実施される TOPIX の第 2 段階の見直しでは、従来の構成銘柄選定の仕組みが見直され、プライム市場、スタンダード市場、グロース市場の全市場区分を対象に、流動性や浮動株時価総額等の基準に基づく定期入替が導入されます。

約 140 兆円の連動運用資産を有する TOPIX の投資対象へ

株式会社日本取引所グループが公表する「JPX Report 2026」によると、TOPIX に連動する運用資産は約 140 兆円に達しています。

当社では、今回の TOPIX 採用について、主に以下の意義があると考えています。

1. 指数連動型運用による株主基盤の多様化・安定化
TOPIX への連動を目指す ETF やインデックスファンド等において、当社株式が新たな投資対象となります。指数連動型運用による継続的な保有を通じ、当社の株主基盤のさらなる多様化・安定化につながることが期待されます。
2. 国内外の機関投資家による投資・調査機会の拡大
TOPIX は、多くの国内外の機関投資家が運用成果を評価する基準として利用されています。TOPIX 構成銘柄となることで、中長期的な視点で投資を行う機関投資家を含め、より幅広い投資家に当社を投資および調査対象として認識いただく機会が拡大することが期待されます。
3. 国内外の資本市場における認知度の向上
日本株を代表する指数の構成銘柄となることを契機として、国内外の市場参加者に当社グループの事業基盤や成長戦略を知っていただく機会がさらに広がるものと考えています。

当社の取締役代表執行役社長兼 CEO である Dr. イン・ルオ（Ying Luo）は、今回の採用にあたり次のようにコメントしています。

「制度改革後初となる定期入替において、グロース市場から当社株式が新たに TOPIX の構成銘柄として採用されたことを、大変意義深く受け止めております。

当社グループは 2026 年 7 月にコロナールを有するあゆみ製薬の買収を完了し、長年目指してきた日本国内における強固な販売基盤を獲得いたしました。現在では日本・中国・米国・オーストラリアに事業・研究開発基盤を有するグローバルなヘルスケアグループへと成長しています。

今回の TOPIX 採用を、より幅広い国内外の投資家の皆様に当社グループを知っていただく新たな機会と捉え、グローバルバイオフーマとして、さらなる事業成長と企業価値の向上を目指してまいります。」

ジーエヌアイグループについて

ジーエヌアイグループは、日本に本社を置き、日本・中国・米国・オーストラリアに拠点を展開するグローバルバイオフーマ企業です。創薬から医薬品の開発・販売、およびメドテック事業をグループ全体の事業として展開しています。当社グループは、独自の創薬プラットフォーム技術を用いた標的タンパク質分解（Targeted Protein Degradation：TPD）による革新的な創薬・基礎研究から、グローバルな臨床開発までを自社グループ内で完結できる体制を敷いています。パイプラインには、主要開発品である F351（現在まで有効な治療薬が存在しない、B 型慢性肝炎に起因する肝線維症の治療薬候補）をはじめ、線維症、がん、炎症性疾患、疼痛などの幅広い領域が含まれます。さらに、原材料の製造から製品の生産までを自社で担う安定的な生産体制、医療機関を網羅する自社 MR（医薬情報担当者）等の強固な販売ネットワーク、および受託製造サービスを有し、次世代の事業基盤を強固に構築しています。

ジーエヌアイグループについて：<https://www.gnipharma.com/>